

みんなの「なんなーの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.81

松本に忍者★参上!



ぬき足 さし足 忍び足
=3月21日、松本市Mウイング

マンガや映画で人気の忍者は、どんな人たちだったのでしょうか? 国宝松本城近くの松本市Mウイングで3月、信毎こどもスクール「忍者研究之巻」が開かれました。忍者研究者で三重大教授の山田雄司先生のお話で初めて知ったこと、「伊賀流忍者集団・黒党」のみなさんから教わった「忍者の動き」について、こども記者たちが伝えます。



三重大教授の
山田雄司先生



松本にも忍者の芥川氏

忍者は、敵の情報を自分の仕える殿様に伝えることが仕事です。そのため、忍者が死んだら任務を果たせないで、できるだけ戦いません。忍者は、有名な伊賀・甲賀だけではなく、全国各地にいました。長野県の松本にも芥川氏という忍者がいました。芥川九郎左衛門は、松本藩の命令で北海道にまで偵察に行ったことが古い文書に残されています。もっと松本の忍者がどんな活躍をしていたのか調べてみたいです。



水谷謙介記者
松本市5年

臨兵闘者皆陣列在前!

忍者の動きを教わりました。まずは「ぬき足、さし足、しのび足」で、つま先の小指からあろしていく歩き方を教えてくれました。立って歩けないところは、犬走りときつね走ります。九字護身法という「呪文」も教えてもらいました。「臨兵闘者皆陣列在前」ととなえると、せいしんとういつがで、おちつけます。



竹内浩二記者
塩尻市5年

「暗号を解け」やりました

さいしょに「ぬき足」をやりました。かた足を上げて、こゆびからあろします。ほかに「うずらがくれ」「(動物の鳴き声の)ものまね」など、いろいろなじゅつがあります。その後、「暗号を解け」をやりました。ほうに紙をまき、字を書いて、ほどきます。そうすると、いみがわからなくなります。でも、ほうにまくと字がわかります。



滝沢勇輝記者
千曲市3年



芥川家の文書が
展示されました



臨兵闘者皆陣列在前



ふろしきを使ってやってみよう

うずらがくれの術



もくもくとなしとげる

忍者は主にじょうほうを集めるのが仕事です。その時に、できるだけ戦わないのだそうで、私はすこしおどろきました。でも、それよりもおどろいたのは、「忍者」の読み方です。「にんじゃ」という読み方は、昭和30年代からだそうで、江戸時代のころは「しのびのもの」と読んでいたそうです。インタビューで聞いた忍者のよさは、三重大の山田先生によると、「もくもくとにんむをなしとげること」で、今も忍者をしている黒党の人たちによると、「どんなことがあってもあきらめないこと」だそうです。



音琴光里記者
松本市5年

忍びのどうぐいろいろ

忍びのしごとはじょうほうしゅうしゅうです。そのためにどうぐをつかいます。一つ目にあみがさをつかいます。かおをかくし、てきの自をそらすためにつかいます。二つ目は、せきひつです。もちはこびがべりなひつきようぐです。あとは、カベをのぼる時につかうかぎなわや、火をつける時につかううちたけもあります。



丸山心優記者
松本市3年

手裏剣あまり使わない

心に残ったことのひとつは「忍者が変そうする種類」です。主に役者やお坊さん、庶民や商人になりました。商人では薬売りになることが多かったそうです。薬売りはどんな人の家をたずねてもあまり怪しまれなかったからです。もう一つは「手裏剣」のことです。忍者=手裏剣と思っている人が多いですが、じつは積極的に戦わなかったので手裏剣はあまり使わなかったそうです。



田畑風音記者
南箕輪村6年

にん者に必要なことは

にん者に必要なことは、一、頭の回転がよいこと、二、記憶力があること、三、コミュニケーションのう力があることで、これは「ぐん法侍用集」に書かれています。山田先生のお話で聞いた、「にん者は日本人のあり方をよく表す」ということに感心し、にん者のことをいろいろな人に知ってほしいと思いました。



岩波理桜記者
松本市5年